

2026年03月31日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【地上戦が実行される可能性は高い】

米国がイスラエルと共に、イランに対して「大規模な戦闘作戦」を開始したのは、2月28日(土曜日)だった。

今日は、3月末だから、まるまる1か月戦闘が続いたことになる。

振り返ると、3月上旬にも、トランプ大統領は、テレビ等のインタビューで、「イランでの戦争は、ほぼ完了している」と発言した。

当初、こういったトランプ大統領の発言を受けて、様々なマーケット(市場)でも、イランでの戦争が終わりに近づいている、といった期待感が高まった

しかし、実際は、事実上の戦争が、1か月たった今も続いている。

トランプ大統領の発言は、その場しのぎに過ぎず、また、コロコロと変わる。

こうなると、

「イランとの戦闘は、すぐに終わる」

とか、

「イランとの交渉はうまくいっている」

といったトランプ大統領の発言は、到底、信じられないことになる。

トランプ大統領は、原油市場や株式市場での価格変動を気にして、いわゆる「リップサービス」をしているのだろう、と推測している。

ガソリン価格が大きく急騰したままだと、今年の中間選挙で、トランプ大統領が負ける可能性が高い。

米国株価が下落したままの状況では、中間選挙の結果は推して知るべし、であろう。

全ては、トランプ大統領が今年の中間選挙を意識して起こしている行動であろう、と推測している。

+++++

一部の報道によると、米国が、中東に派兵した米軍兵は、5万人を超えたようだ。

通常より約 1 万人多い規模に拡大していることが伝えられた。

沖縄を拠点とする海兵隊などを追加派遣したようだ。

一方、米政府内ではホルムズ海峡の封鎖解除を視野に入れ、イラン領内での地上戦も検討している様子だ。

以前のトランプ大統領は、地上戦は行わない、と発言していたが、既に述べた通りに、同氏の発言は、コロコロと変わるので、むしろ、派兵が増強された現時点では、地上戦が実行される可能性は高いと判断した方が、良いのだろう。

+++++

上述の状況下で、パキスタンのダール副首相が、アメリカとイランの戦闘終結に向けた協議をパキスタンの仲介で、近日中に開催する、と表明した。

無論のことながら、話し合いで、戦争が回避されるのならば、それに越したことは無い、と考えます。

しかしながら、米国のイランに対する要求と、イランが米国に要求する内容に、大きな隔たりのがあるので、このパキスタンの仲介による協議に、期待することは出来ない、と考えます。

+++++

現在の状況は、米国・イスラエルとイランの戦争状態が、今後どうなるのか、不透明なままで、何も変わっていない、と考えます。

引き続き、リスクをコントロールして、慎重に対応すべき、と考えています。

+++++

(2026 年 3 月 31 日東京時間 14 : 20 記述)